

【資料】

## 雲南省概況

### 1. その範囲及び行政区分

雲南省は「雲」或いは「テン」と略称し、中国の南西部国境地帯に位置し、北回帰線がその南部を横きり、低緯度にある内陸地域の一つです。南北は北緯  $21^{\circ} 08'$  より  $29^{\circ} 15'$  まで約 **990 km**、東西は東経  $97^{\circ} 81'$  より  $106^{\circ} 12'$  で約 **864.9 km** に及びます。総面積は中国 **8** 番目の約 **39.4** 平方キロで、ほぼ日本と同じぐらいですが、その **90%** 弱は山岳地帯となっております。

**隣接の地域** 雲南省は綺麗な雲の南に位置することから名付けられたと言われますが（「雲南通誌」李京）、雲の南にあるからとの説もあります。東は広西チワン族自治区、貴州省と隣接し、北は金沙江を境として四川省と川を隔てて向かい合っています。北西はチベット自治区と相連なり、西部はミャンマーと、南部、南東部はそれぞれラオス、ベトナムと接しています。国境線は、ミャンマーと約 **2000** キロ、ラオスと約 **750** キロ、ベトナムと約 **1300** キロ接しており、計 **4061 km** です。この国境線の長さは新疆、内モンゴルに続いて **3** 番目となります。東南アジア諸国との通商港国レベルの **10** 個、省レベルの **8** 個設けられており、国境を跨って生活する民族は **13** にも及んでいます。雲南省は中国と東南アジア・南アジアを繋ぐ重要な通路でもあり、インド半島とインド洋に通じる一番近い陸上通路でもあります。したがって、雲南省は地理上に、重要な地位を占めています。

**行政区分** 行政区：(省都は昆明市)

**6** 地区：昭通、玉溪、思茅、保山、麗江、臨倉

**8** 自治州：楚雄、紅河、文山、西双版纳、大理、徳宏、怒江、箇慶

**3** 省轄市：昆明、東川、曲靖

### 2. 地貌

**地勢及び二大地形** 雲南省の地勢は北西から東南へと階段状に成して、緯度が低くなるにしたがい下がっていきます。几標高最高地帯である梅里雪山のか格博峰の標高は **6740** メートルを誇りますが、最低地帯はベトナムとの境に位置する河口県にある南河と元江の合流点で、標高がわずか **76.4** メートルしかなく、その間に **6600** キロもの落差が作られています。つまり、地勢は約 **900** キロの間に **1** キロごとに **6.7** メートルという具合で下降しています。このように急激に落差を成したのは世界でも珍しいほうでしょう。

更に、全域は元江の谷地域より雲嶺山脈の南までの谷間を境に、東部の高原区と西部の横断山脈峡谷区という二大地形区に分けられます。東に広がる雲南・貴州高原は標高が北の **4000** メートルから南の **1500** メートルまで、変化に富んでおり、一部において典型的なカストル地形が形成されております。東部の平坦と対照的に、西部は高黎貢山・怒山・雲

嶺等の険しい山々とメコン川・サルウイン・揚子江上流（金沙江）等大きな川から構成された峡谷地帯となります。激しい地殻変動の結果、高山の峰と河谷との落差がますます大きくなり、著名な虎跳峡あたりでは、**3500**メートル以上もの落差が作られています。したがって、標高変化による気温の差は必然的に植物・動物ないし鉱物の差異をもたらしました。そして、「一山四季ありて、十里天を共にせず」と言われるような独特な気候が生まれました。

**地貌の特徴** 雲南省では海岸地貌と砂漠地貌以外、山地・高原・カルスト地形・盆地等ほとんどの地貌類型をあわせ持っており、起伏変化に富んでいます。上にご説明したように、雲南の地貌の主な特徴は波のようにする東部の高原の平坦と、高山と谷が相まって縦横する西部のしさと対照的存在にあります。それに、地勢が北西から東南へと階段のように下降していくことです。更に、高山と河川が縦横に交差し、複雑な地形を作り出しております。山々の間に広がる盆地が盤上の碁石のようにあちこちに散らばっていて、平野のどこに住んでいても山の見えないところがない箱庭の景観をとどめております。統計によると、雲南省境内には面積が1平方キロ以上の盆地が約**1442**あり、総面積が**2400**平方キロに達して、その**7**割が東部に分布しております。

**主な山脈** 雲南省では主な山脈は高黎貢山・怒山・雲嶺の三つです。この三つの山は北西から南に向かって広がるように伸びていきます。高黎貢山はタングラ山脈の延長であり、省内における部分の平均標高が**3500**メートル、最高峰が**5128**メートルに及び、頂上には年中雪があります。当山脈の西坂には中国著名な藤沖火山郡があります。

怒山はメコン川とサルウインの間にそびえ、雲南省とチベットの境目となっております。標高**6000**メートル以上の峰が**10**あまり抱え、雲南省の最高峰のカ格博峰が中の一つです。

### 3. 気候

モンスーン（季節風）の影響と高度の差が激しい複雑な地形により、複雑な地形・地貌及び緯度差・標高落差等の影響を受けて、雲南省の気候は今よりご説明するように独特な性格を示しております。

**特徴** とは言え、雲南省は主に亜熱帯高原季節風気候であり、標高落差の激しい地域は垂直における変化が激しいため、山地気候となります。冬も夏も暖かい南西の風がはやり、乾期と雨季がはっきり分かれております。5月から10月までは雨季で、降水量が年中の**85-90%**ぐらい占めます。雲南省は気候類型が多く、緯度変化による変化の差異と標高変化による垂直の差異が顕著であり、昼夜の気温差が大きく、年中穏やかな気温で、平均気温は**16.1℃**ぐらいです。

**気温の差** 雲南省は低緯度の高原に位置するため、大気が薄いです。太陽の輻射が大気層を通りぬく時に生じた熱量の損失が少量なので、地表温度の上昇が早いです。反対に、日が暮れるにつれて、熱は地表から発散する時、薄い大気層の保温効果が低いので、気温が下がりやすいのです。それ故に、朝晩の気温差が**12-14**度にあがります。

**多様な気候類型** 先ほどご紹介したように、雲南省は地勢の起伏が激しい故に、落差の1000－3000メートルに及ぶ地域が多く、最大落差が6600メートルに達します。標高は1000メートルに気温5－7度という具合で計算すると、落差3000メートルの山地では頂上との麓の気温差が約18度にもものぼり、広州とハルビンとの温度差に相当します。つまり、垂直方向に1000メートルの落差が水平方向1000キロの温度差を作り出されるのです。標高落差の激しさから、高山氷原帯より温帯・亜熱帯・熱帯に至るまでさまざまな気候類型が生じました。

#### 4. 河川と湖

**河川の特徴** 雲南省は揚子江・メコン川・サルウイン川・紅河・珠江とは雲南境内を流れる六大水系。イロワデー江とサルウイン川はインド洋に、残りの四本は太平洋に流れ込みます。そして、「北高南低」という地勢で北から南へと流れる主流は北緯25°C辺りに来ると方向を変えて、それぞれ東・西・東南へと流れるようになります。もっとも有名なのは「長江第一湾」と呼ばれる景観です。遠く青海省に源を発した揚子江は南に向かって約1300メートル走り、麗江の石鼓という集落で急に大きく曲がり東北へと流れていきます。この勢いのある大湾曲はまるで自然の雄大さを誇るように雲南省の山々を飾り立てています。そして、ほかにメコン川・紅河等も東南へ方向を変えています。依然として南に傾いて流れるのはサルウイン川だけです。このように古里を共にする川たちはだんだんお互いの距離を遠くしながら、それぞれ帰すべき海へ向かっています。川たちの作った軌跡は箒状になっているので、「箒状水系」とも呼ばれています。因みに、揚子江・サルウイン川・メコン川の三大川は海に流れ込む時の間隔が3000キロも越えたそうです。

**三江並流** 「三江並流」とはサルウイン川・メコン川と金沙江の三江が西から東へ順番に立ち聳える高黎貢山・怒山・雲嶺と相まって南へ約400キロ平行する光景のことです。北緯27度30′付近では三江の間の距離が最も短くて、僅か66.4キロにすぎず、しかも、標高がそれぞれ金沙江の2100メートル・メコン川の1900メートル・サルウイン川の1600メートルとなっており、三江の川面が階段状を成して並んでいます。三江が高く聳える三山の間には挟まれて勢いよく流れていくという喩えようもない自然の雄大さが私たちの心に感動を呼び起こすでしょう。

**高原の湖** 雲南省の湖区は中国五大湖区に入っており、1平方キロ以上の湖が37個あります。ほとんど淡水湖です。昆明市に広がるテン池と澄江県にある撫仙湖がそれぞれ中国の第6淡水湖・第2深水湖となっております。これらの湖は山々の間嵌め込まれたに真珠のように光り輝いて、雲南省の隅々まで潤しています。

更に、雲南省は温泉の出水量が年間約3.6億立方に及び、チベットについて中国第二位を誇ります。飲用水として開発できるのは千ヶ所あまりあります。

## 5. 資源

雲南省は豊富な自然資源に恵まれ、「植物の王国」、「動物の王国」、「非鉄金属の王国」、「漢方薬材の宝庫」、「香料の里」、「天然の花園」などの美名を与えられています。

**植物の王国** 雲南省は中国で植物の種類が最も多い省であり、全国の 3 万種類近くの高等植物のうち、雲南省にはその 62.9%を占める 1.8 万種が見つかっています。地貌の複雑性及び気候類型の多様性により、高山針葉林から熱帯広葉林まで 105 の森林類型が北から南にかけて分布しており、寒帯・温帯・熱帯の植生類型がすべて揃ってあります。熱帯、亜熱帯にあるべき 108 属 8000 種あまりの植物が雲南省にすべて植えられてあります。例えば、雲南松・雲南油杉・雲杉・冷杉・鉄杉などが雲南省を分布の中心とする植物です。後の三種類はよく日本に輸出されるそうです。

雲南省の森林面積は中国第四位の約 953.3 万ヘクタールあり、森林の率が 24.2%であり、木材の蓄積量が中国第三位となっております。

更に、キノコ・漢方薬・香料などの類も多様多種であり、人々の日常生活に大きな役割を果たしております。日本で山の幸と称える松茸はその大部分が雲南省の美しき自然で育ったものです。そして、血液の循環や肝臓に良いと言われる田七も対外貿易の発展とともに、世界各国に輸出され、日本にも利用される方が少なくないでしょう。この意味で言えば、雲南省と日本は雲南省の山や水で深く結ばれていると言っても過言ではないでしょう。そして、天麻・冬虫夏草・黄連などの漢方薬もその優れた効用で知られ広く利用されています。また、雲南省には 1500 種類もの花卉が四季とりとりに咲き乱れ、「天然の花園」を作り出しております。

**動物の王国** 野生動物が多く、脊椎動物だけでも約 1737 種確認されており、中国 3099 の約 58%を占め、堂々と第一位となっております。中に哺乳類動物は 259 種、鳥種は 766 種、爬行類動物は 135 種あり、それぞれ全国の 55%・65%・42.8%を上回っています。ほかに両棲類・淡水魚類もかなりのシェアを占めています。昆虫類は数万種と推測されており、胡蝶類も 700 種あまり確認されています。「動物の王国」というに恥じない数でしょう。

雲南省には珍しい動物が数えきれないほどあります。アジア象・豚鹿・金糸猿・熊狸などが雲南省または東南アジア特有の動物です。華南虎・小パンダ・緑孔雀などのような絶滅危惧の動物も雲南省境内に棲息しています。国によって指定された珍しい保護動物の中に雲南省はその半数以上を確認されています。さらに、微生物資源も豊富で、世界で発見された種類がすべて雲南省で見ついているそうです。

**非鉄金属の王国** 現在、すでに発見されている利用可能な鉱物は約 150 種あり、全国の既知鉱物種類の約 93%を占めており、その埋蔵量による経済価値は約 3 万億元に上ると推定されております。そのうち、燃料として利用できる鉱物は約 41%、金属鉱物は 7.3%、非金属鉱物は約 52.7%を占めております。埋蔵量が確認された鉱物は 86 種類あり、鉱物の産地は 2700 ヶ所あります。埋蔵量が全国の上位にランクされたものは約 28 種あり、そのうち、7 種が全国の首位を占めております。しかしながら、それらの鉱物資源を開発利用す

るための技術条件や環境はまだ整えていないようです。

**水エネルギー** 雲南省はエネルギーの資源もほかの資源に劣らぬ豊かさを持っており、主に水・石炭・地熱などによるものです。そのうち、開発可能の水エネルギーは全国の約**18.8%**を占める**7116.8%**キロワットぐらいあり、年発電量が**3944.5**億キロワットに上り、四川省について第二位を占めると理論上で目論まれております。雲南省の水エネルギーの約**92%**は金沙江・メコン川・サルウィン川の三大水系に集中しています。重点プロジェクトとしてメコン川で大型の発電所を**10**個、建設する計画が取り組まれております。現在**125**キロワットの漫湾発電所がすでに工事を遂げました。

## 6. 民族について

雲南省は中国で少数民族の最も多い省で、全国**56**の民族のうち、雲南省にその半数以上の**26**もあります。総人口**4235.9**万人（**2000**年）のうち、漢族以外の民族の人口が約**1300**万人あり、三分の一を占めております。そのうちに、最も人口が多いのは約**461**万人ものイ族で、最も少ないのは独竜族で僅か**0.55**万人しかありません。

雲南省の少数民族は長い歴史の中で流され磨かれて、それぞれユニックな文化様式を作り出しました。いずれもその知恵に基づいた、自由意識による選択の結果だと言えます。しかし、それらの民族の間には「生きた社会発展史」と呼ばれるほど、激しい発展の差異が存在しておりました。**20**世紀**50**年代の調査によれば、辺境や山岳地帯に文分布する独竜族・リス族・怒族・ジンポ族・ワ族などの集落はまだ原始社会から階級社会への過渡期にあたり、永寧のモソソ一人は母系社会に止まっていたと言われました。が、同時代のイ族社会においては、厳しい階級制があり、世襲貴族や奴隷などの身分制も色濃く残っていたとのことです。そして、白族、納西族、チワン族など封建地主経済段階に入り、漢族との差異があまり見られなかったそうです。

## 7. 宗教信仰

雲南省は宗教類型の最も多い地域でもあります。仏教・キリスト教・カトリック教・道教・イスラム教といった五大宗教のほかに、多くの民族にまだトーテミズム・原始信仰または原始宗教の名残が色濃く残されており、「宗教の王国」と言われることもあります。**1996**年**5**月までの調査によれば、雲南省には宗教活動の専用場所が**4798**ヶ所あり、宗教団体が**96**個、信者が約**200**万人あまりいるとのことです。一言で言えば、他宗教の並存・上座部仏教（小乗仏教）の信仰及び原始宗教の多様性が雲南ならではの特徴と言えます。